令和５年１１月１４日

開 進 三 中 だ よ り

＜ 第７号 ＞

—◆たくましい人◆考える人◆心豊かな人◆助け合う人— 練馬区立開進第三中学校

全国学力・学習状況調査の結果より（中学３年生　４月実施）

校長　堀 健一

平均正答率（%）

	全　国	東京都	本　校
国 語	６９．８	７２．０	８０．０
数 学	５１．０	５４．０	６４．０
英語（聞く読む書く）	４５．６	５２．０	６４．０
英語（話すこと）	１２．４	―――	３２．０

本校の３年生は、東京都を国語８、数学１０、英語（聞く・読む・書く）１２ポイントそれぞれ上回っています。このことから、本校生徒の学力に関してはおおむね良好であると受け止めています。課題としては、全国平均に達していない生徒を「分かる」「できる」ようにするための指導の充実を図ることです。また、本校生徒の正答率が比較的低かった部分について分析し、国立教育政策研究所発行の解説を参考にして今後の学習指導の充実・改善にあたります。

国語　領域「読むこと」は、79.9%と比較的高い結果となりました（都 67.2%、全国 63.7%）。一方、インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する問題（領域「情報の扱い方」）で、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」の正答率は 65.9%でした（都 66.0%）。

●本問では、総合的な学習の時間において、「社会で働く上で大切なこと」について考えるために、インタビューする場面が設定されました。目的に応じて集めた情報を基に知りたいことを整理し、相手の話を捉えて効果的に質問したり、聞き取ったことを基に自分の考えをまとめたりすることが求められました。

○ 情報と情報との関係を理解する指導の充実

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における指導事項が示す資質・能力を育成するためには、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になります。そのために、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導していきます。

数学　領域「図形」は、55.3%と比較的高い結果となりました（都 39.2%、全国 33.2%）。一方、女子５０ｍ自由形の記録の、最小の階級から 29.00 秒以上 30.00 秒未満の階級までの累積度数を求める問題（領域「データの活用」）で、「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」の正答率は 45.5%でした（都 46.5%）。

●本問は、累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題です。累積度数は、度数分布表やヒストグラムを用いてデータの傾向を読み取る際に必要であることから出題されました。

○ 度数分布表や代表値などを用いてデータの分布の傾向を捉える活動の重視

代表値や四分位範囲、累積度数を用いて分布の傾向を読み取ることができるよう、データの傾向を捉える活動を重視することが大切です。その際、目的に応じて度数分布表やヒストグラムから累積度数などを求め、それを用いてデータの分布の傾向を読み取ることが重要になります。

英語　領域「書くこと」は、47.5%と非常に高い結果となりました（都 29.6%、全国 23.4%）。一方、バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する問題（領域「聞くこと」）で、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる」の正答率は 45.5%でした（都 46.7%）。

●本問では、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために、バーベキューパーティーの説明を聞いた後に質問が放送される問題でした。なお、本問と大問２は、出題の趣旨において「必要な情報を聞き取る」という点では共通していますが、大問２では「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る」のに対し、本問では「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」という点で異なっています。目的に応じて必要な情報を聞き取ることだけでなく、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取ることも大切であることから両者が出題されました。

○目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分が必要とする情報は何かを把握した上で聞き取ることが重要です。指導に当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切であり、その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられます。

指導に当たっては、例えば次のような言語活動に取り組むことが考えられます。

・ 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

・ 学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡、天気予報、交通情報などを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことも重要です。

キャリア教育

おやじの会の方々をゲストティーチャーにお招きし、３年生は「社長のなり方」、２年生は「建設業～仮囲いの中の仕事～」、１年生は「地元で働くということ」をテーマにご講演いただきました。働くということ、豊かに生きることなど素敵なお話をいただきました。

校区別協議会

校区別協議会で、開進第二小学校、開進第三小学校にお伺いし、各校の１年生から５年生までの授業参観と、６年生に対し本校の教員が出前授業を行いました。出前授業の社会では「江戸時代の双六」、英語は「動詞を学ぼう」、家庭科は「1 食分の献立を立てよう」の授業に一生懸命に取り組んでいました。

第１学年校外学習　*Ｌｅｔ ‘ｓ enjoy 知る・学ぶ・広げる in Tokyo*

１学年は、探求学習として事前学習を行い、調査するためのコースを自分たちで話し合いながら決定し、当日を迎えました。事前学習ではテーマ設定や仮説を考え、自分たちで設定したテーマをもとに各見学地を巡りました。現地にいる方にインタビューをした班、実際に建物を見て違いを見つけた班、“たくさんの学び”があった都内巡りとなりました。

第２学年校外学習　*深化する私たち　～他者理解を深めよう～*

２学年は、「他者理解」をテーマとし、古都鎌倉の「自分ではない誰かのための旅行プランを考える」ことを通して、他者理解を深め、学年目標の思いやり、優しさ、気遣いを身に付けることを目的としました。インタビューや実際の対象者や現地を目にすることで新たな視点をもとに学ぶことができました。

１、２学年ともに校外学習の班行動を通して、仲間と協力することの大切さ、仲間を思いやることの大切さを学ぶことができました。